

佐渡米通信

こめ〜る

2021年 08月号

発行日:2021年8月

編集人:佐渡農業協同組合 営農事業部販売企画課 駒形・澁谷・渡辺(清)
jasadoeinoubu20@dune.ocn.ne.jp

水稲穂肥指導会

7月1日から12日までの期間、島内100カ所の圃場で穂肥指導会が行われました。指導会では「穂肥は適切な量や時期が重要なので、配付したカラスケールを用いながら幼穂や葉の色などを確認すること、今年は茎数がやや多い傾向にあるため、栄養不足にならないようにしっかりと穂肥を行ってください」と説明が行われました。

資料に沿った説明の後には質疑応答が行われ、幼穂の長さで1回目の穂肥施用の適期を確認する方法など質問が飛び交いました。



指導会を再確認できる様に、Youtubeの「JA佐渡営農指導チャンネル」で指導会の様子を配信しています。



葉色をカラスケールに照らし合わせて 幼穂の長さや葉の色の濃さを農家さんと目合わせをする営農指導員 測るためのカラスケール



中干しと江の生きものたち

お米をつくる工程の中で、田植え後約30日を目安に「中干し」を行います。中干しをすることで茎1本1本が太くなり、お米にしっかり栄養が届き品質のよいお米につながります。

水を抜き田面を乾かす中干しを行う際に、田んぼの生きものたちは田んぼ脇の江(水場)に移動します。その江で生きもの調査をすると、おたまじゃくしに手足が生えていました。また、ドジョウやヤゴ、2012年に新種に登録された絶滅危惧種サダガエルも確認することが出来ました。



中干し中の圃場



江の生きものたち

腹や脚が濃い黄色なのが特徴です



サダガエル

生きもの語り作品募集

今年も「佐渡生きもの語り」の作品が9月末まで募集されています。「佐渡生きもの語り」とは環境に配慮し、自然や生きものを思いやりながら農業を行う農家の人々、生物多様性の島づくりをめざし活動を行っている人々、遠い地から佐渡を思う人々の「心の語り」を川柳や短歌、イラストなどで表現したものです。

応募作品は「朱鷺と暮らす郷」米のPR等に活用される予定です。応募方法は「生きもの語り研究所」までお問合せください。

電話番号: 0259-22-2658

島外にお住まいの方も参加できます! 皆様のご応募お待ちしております!!



2021年 作品募集



募集部門: 川柳・短歌/イラスト/イラスト川柳/その他

応募期間: 2021年9月末まで

祝! GIAHS (ジアス)

「トキと共生する佐渡の里山」認定10周年

佐渡が日本初の世界農業遺産(GIAHS:ジアス)に認定されてから10周年を迎え、6月11日に佐渡市役所で懸垂幕の掲揚式が行われました。ジアスは世界的に重要な伝統的農業を営む地域をFAO(国際連合食糧農業機関)が認定する制度で、佐渡はトキとの共生を目指した「生きものを育む農法」の取り組み、棚田の景観などが評価され2011年6月、日本で初の認定を受けました。

10周年を迎える今年には普及啓発活動を推進し、佐渡市役所と両津港に横断幕を設置して広くPRする他、10月には記念フォーラムの開催が予定されています。



懸垂幕の掲揚式



トキ



棚田

JA佐渡の公式 Facebook「佐渡のたんぼにつき」で佐渡の情報が見られます。
<https://www.facebook.com/jasadotanbo>

